われわれは、今年5月から本測定が可能となり ¹⁵〇 標識ガス吸入法と Headtome III を用い、脳卒中症例14例 (脳梗塞10例、脳出血4例)の局所脳血流量、酸素抽出率、酸素消費量、および脳血液量の測定を施行した。その結果、脳梗塞急性期における脳血流量と酸素代謝の不均衡は明らかで、この内、極早期にみられる、酸素抽出率の増大、すなわち病巣部への酸素供給不足状態は、脳細胞の虚血性障害がまだ可逆的な状態であると想定され、本疾患治療上、重要な意味をもつと考えられる。

座長のまとめ (21~26)

井沢 豊春 (東北大・抗研内科)

第21席神各氏(青森中病),第22席鈴木氏(盛岡日赤) とも肺における 67Ga 集積例を報告されたがいずれも集 積機序は不明であった. 第23席の高梨氏(山大)の悪性 腫瘍や炎症巣検索における 67Ga スキャンの適応を著し く制限すべきであるとの報告は注目された. 臨床的期待 感が大きい時には、X線やCTにくらべて診断的有用性 に乏しいとの発言は慎重な症例検討の結果から生れた結 論で傾聴に値する. 第24席鎌田氏(弘前大)は, 111Inoxine 標識白血球を用いて肝膿瘍の診断に有用であると 報告,第25席西沢氏(弘前大)は,骨,軟部組織腫瘍 への ²⁰¹Tl の応用を報告し、Grawitz 腫瘍の転移巣や neurinoma で 201Tl が 67Ga よりはるかに集積が高いこ とを報告した. 第26 席伊藤氏(北大) は, ¹³¹I 標識 CEA 抗体を応用した腫瘍スキャンの試みについて発表された. 抗 CEA 抗体は理論的には大いに期待が持たれるだけに、 試みにとどまらず、有用性の確立に向けて努力されるこ とを切望する.

21. リンパ管造影後ガリウム肺集積を認めた1例

神谷 受利 横山 佳明 李 敬一 (青森県中病・放)

症例は49歳の男性で右扁桃腺腫大を訴え、当院耳鼻科を受診した。悪性リンパ腫の診断で、放射線治療のため当科入院となった。入院前の67Gaシンチでは胸部に異常を認めなかったが、リンパ管造影2か月後に67Gaシンチを施行したところ、肺野にびまん性67Ga異常集積を認めた。なお、入院中化学療法も併用した。理学所見、

胸部 X 線写真,ガス分析などで異常を認めず臨床的に肺炎とは考えにくく退院させ,経過観察を行った.退院 1 か月後の再検では 67 Ga の肺異常集積は完全に消失していた.この症例の 67 Ga の肺異常集積の原因はリンパ管造影による可能性が高いが,化学療法も併用しており薬剤性肺炎の可能性も完全には否定できなかった.いずれにせよ,このような混乱を除くためには, 67 Ga シンチをリンパ管造影の前か,あるいは造影後一定期間できれば 3 か月以上経過したのち施行したほうが良いと考えられた.

22. 原発性肺癌の ⁶⁷Ga シンチグラフィー

 鈴木 俊彦
 (盛岡赤十字・放)

 佐藤 隆一
 (岩手医大・放)

原発性肺癌 36 例に対し、67Ga シンチグラフィーを行った結果、組織型ごとの陽性率は、扁平上皮癌 15/17 例 (88.2%)、腺癌 3/5 例 (60%)、小細胞癌 8/8 例 (100%)、および不明 6/6 例 (100%)で、全体で 88.9%で あった、X線写真で腫癌型を呈した22例中、直径 3.0 cm 以下の3 例中、扁平上皮癌の1 例に集積をみた。3.1 cm 以上の症例19例中、腺癌の1 例をのぞいて陽性を呈した. 放射線治療を行った30例中17例について、治療前後の67Gaシンチグラムと X線写真を比較すると、治療後 67Ga集積が低下した9 例全例が X線写真上改善を認めた. 集積増加した6 例中4 例に放射線肺炎の併発をみた。その他、67Ga 集積を認めず、放射線治療無効であった症例および67Ga シンチグラフィーで治療経過を追い、67Ga シンチが有効であった症例を供覧した。

23. 67Ga-Scintigraphy の適応に関する検討

高梨 俊保 板垣 孝知 菊地 潤一 駒谷 昭夫 山口 昻一 (山形大・放)

67Ga は腫瘍や炎症巣の検索に広く利用されている. しかし Ga シンチの有用な疾患は決して多いものではな くその適応は限られている.この観点から本学において 行われた 300 例の Ga シンチについて検討してみた.

肺癌では87%に陽性所見を得たが胸部 X-p. や CT と 比べると有用性は低い. ただし小細胞癌では遠隔転移も 描出された. 悪性リンパ腫では80%の陽性率であったが